

新春特別寄稿

【はじめに】

CBD(化粧品表示名称「カンナビジオール」とはアサ科1年草の薬用植物アサ(Cannabis sativa L.)に含まれるカンナビノイド化合物の一つで、現在最も薬理効果が期待されている非精神活性物質である。アサという大麻が思い当たるが、大麻の幻覚作用をもたらすのはカンナビノイド化合物の中でもTHC(誘導体含む)と呼ばれるもので、CBDは幻覚作用・依存性などをもちたらない。

そのため、医薬品利用はもちろんだこと、リラックス効果や鎮静作用を目的として、諸外国ではオイルをそのまま飲用したり、各種食品に混ぜ込んだものが販売されて人気を博している。

いままでは経口で摂取されるのが主であったが、皮膚にも受容体があることから、経皮に塗布して摂取するタイプのものも効果が報告されている。

このような背景からCBD入り化粧品が海外で展開されてきており、THCを含まない葉と種子からのみ精製された原料を製造するプロセスが確立されてきた。事により、大麻取締法の壁があった日本でも、CBD化粧品がこの数年で脚光を浴びてきている。

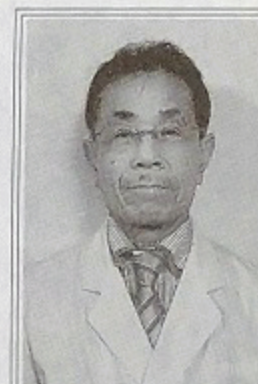
浴びてきている。

化粧品設計における課題として、油溶成分のCBDは油剤とともに使用しなくてはならず、水系製剤の化粧品は開発しづらいという成分面での問題がある。

そのため、海外で発展してきたCBD化粧品はオイルをそのまま塗布するものと、硬化油剤に溶かしたバーム、比較的簡単な乳化法を用いたクリームが主である。

されることが考えられる。

また、なによりCBDは純粋の薬剤としてその有効性に期待ができ、植物抽出エキスといった含有する微



谷本 康氏

製剤にも配合が可能になる。ただし、油溶成分であるCBDは水性成分を内包させるリポソームの内相に包含する事はできないため、カプセル膜として構成される脂質二重膜層に固定されるよう、一から設計しなければならぬ。

弊社では、リポソームを

この課題に対して私達

は、皮膚の細胞間脂質の構

CBD化粧品と

今後の展望について

エスコ技術部 谷本 康

しかし、日本の高度な化粧品製剤技術を活用すること、油剤と水系の高度な乳化法や複数の成分の組み合わせによる油剤の絶妙なテクスチャーが可能である。

日本では合法かつ安全なCBDの原料の入手が可能になった今、日本の化粧品技術を生かした肌の受容体により届く、かつテクスチャーの良い乳化系あるいは油剤の化粧品開発が可能になる。

これによって、海外の化粧品は一線を画した日本独自のCBD化粧品が確立

な。

量有効成分とは異なって、美容業界でもその効果に大きな期待が寄せられる事が推測される。加えて、まだ未知数な部分も多いため、市場に拡散する事で今後さらに有効性の検証に期待は大きい。

日本の優秀な化粧品製剤技術を使うCBD化粧品に

交せてまとめた。

【水系製剤への応用と吸収性】

薬機法的に化粧品では薬剤の経皮吸収を訴求する事はできないが、角質層レベルで皮膚なじみ性を高める製剤手法を用いる事で、美容的効果を手助けする事は期待できる。

そういう意味では、医薬品のDDS製剤であるリポソーム設計技術を化粧品に応用する事は、疎水・疎油と考える。それは私達が今回エッセンスを採取した事で、データによって確認を得た。

この課題に対して私達

は、皮膚の細胞間脂質の構

容易に一から設計する独自の技術を開発している事から、CBDを水系化粧品に配合するための専用リポソームの開発が可能となった。

さらには、これによって水系への配合で必須となる、界面活性剤の使用も避ける事が可能となり、差別化の一助となる。

【エマルジョン設計】

油性製剤のCBDは、油剤を配合するエマルジョン化粧品に配合が容易であるのはいつまでもなく、水系製剤では達成が困難な高い配合量のCBD化粧品の実現も可能となる。

また、皮膚へのなじみ性の観点からも、微細なエマルジョンは角質層深部に導入されやすい事は既知の事実で、乳液や保湿クリームといったスキンケア製品群にCBDを配合する事は大きな意味がある。

しかしながら、一般的な配合ポリマー・非イオン活性剤・高級アルコールを用いたエマルジョン設計では皮膚バリア層表面に留まっ

てしまい、角質層の深部にまで浸潤させるには不十分

な角度に湿調をもちたらずと

あり、固形状であるバーム形状は利便性が高い。しかしながら、海外製品にみられる融点の高い硬化油を用いて皮膚の温度で溶

内クレシニング剤に改革を起したクレシニングバームの製剤技術を美容オイルへと年かす事で、品質安定性に優れたCBDオイルバームの設計が可能となる。

【オイルバーム製剤】

CBD化粧品の設計でも

融するバーム製剤に設計したのでは、耐温度性が脆弱で品質トラブルを起こす事は避けられない。

融するバーム製剤に設計したのでは、耐温度性が脆弱で品質トラブルを起こす事は避けられない。

(おわりー 原文のまま)

ブランド価値を高める オンリーワンコスメづくりのパートナー

- 技術** 研究・開発のアイデアの源は、豊かな経験と好奇心。“金太郎飴コスメはつくりたい”をモットーに自由な発想で、技術・テクスチャー・安全性を追求するコスメづくりに邁進中。
- 製造** 簡単には“NO”と言わない職人チーム。発注ロットや納期など、臨機応変、お客様のご希望に真摯に対応するモノづくりのスペシャリスト集団。
- 商品企画** 美容成分大好きな直感型&即行動の文系チーム。持ち前のコミュニケーション能力!?を活かして、お客様の想いをカタチに。各部門とも連携し、化粧品づくりを全力サポート。
- 品質管理** 厳しさと優しさを兼ね備えた女性チーム。製品の各種試験のほか、薬事業務、医薬部外品のデータ収集など“安心”を守るエキスパート。



エスコ株式会社

本社 / 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町13-4
工場 / 〒344-0007 埼玉県春日部市小淵1140-1

http://www.es-cosme.com

お問い合わせ TEL: 048-761-2078
mail: info@es-cosme.com